

第 1 章 調査概要

1. 調査目的

本調査の目的は、家庭から排出される生活系（可燃）ごみ、事業所などから排出される事業系（可燃）ごみについて組成割合を調査し、ごみの排出状況を把握するとともに、更なるごみの減量化・資源化推進のための基礎資料とすることである。

2. 調査実施内容

① 生活系ごみ

- 【実施日】 平成 27 年 12 月 22 日（火）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【試料採取地域】 文京地区（富士見町）
- 【集積所の形態】 ステーション方式（町会等）、ステーション方式（集合住宅）、毎戸方式
- 【備考】 ポリバケツ、集積ボックス、防鳥ネット、袋のみでの排出
- 【可燃収集曜日】 火曜・金曜
- 【想定条件】 学生居住地域
- 【採取量】 203.2kg（集積所 2 か所分）
- 【気温（平均）】 3.6℃
- 【収集時間】 36 分

② 事業系ごみ

- 【実施日】 平成 27 年 12 月 25 日（金）
- 【調査場所】 弘前地区環境整備センター（弘前市大字町田字筒井 6-2）
- 【季節】 春・夏・秋・冬
- 【想定条件】 任意の搬入車両 1 台を調査
- 【採取量】 207.6kg（塵芥車（大型）1 台積載量の 10 分の 1 程度）
- 【気温（平均）】 1.8℃

3. 調査手順

（1）試料の回収

① 生活系（可燃）ごみ

調査対象の集積所から市職員がごみを回収し、指定の場所に搬入する。

② 事業系（可燃）ごみ

中間処理施設へ持ち込まれたごみを施設担当職員の誘導のもと、指定の場所に搬入する。

（2）分類及び重量の記録

搬入された試料の分類を行い、組成区分ごとに重量を計量し、記録する。

第2章 調査結果

① 生活系（可燃）ごみ

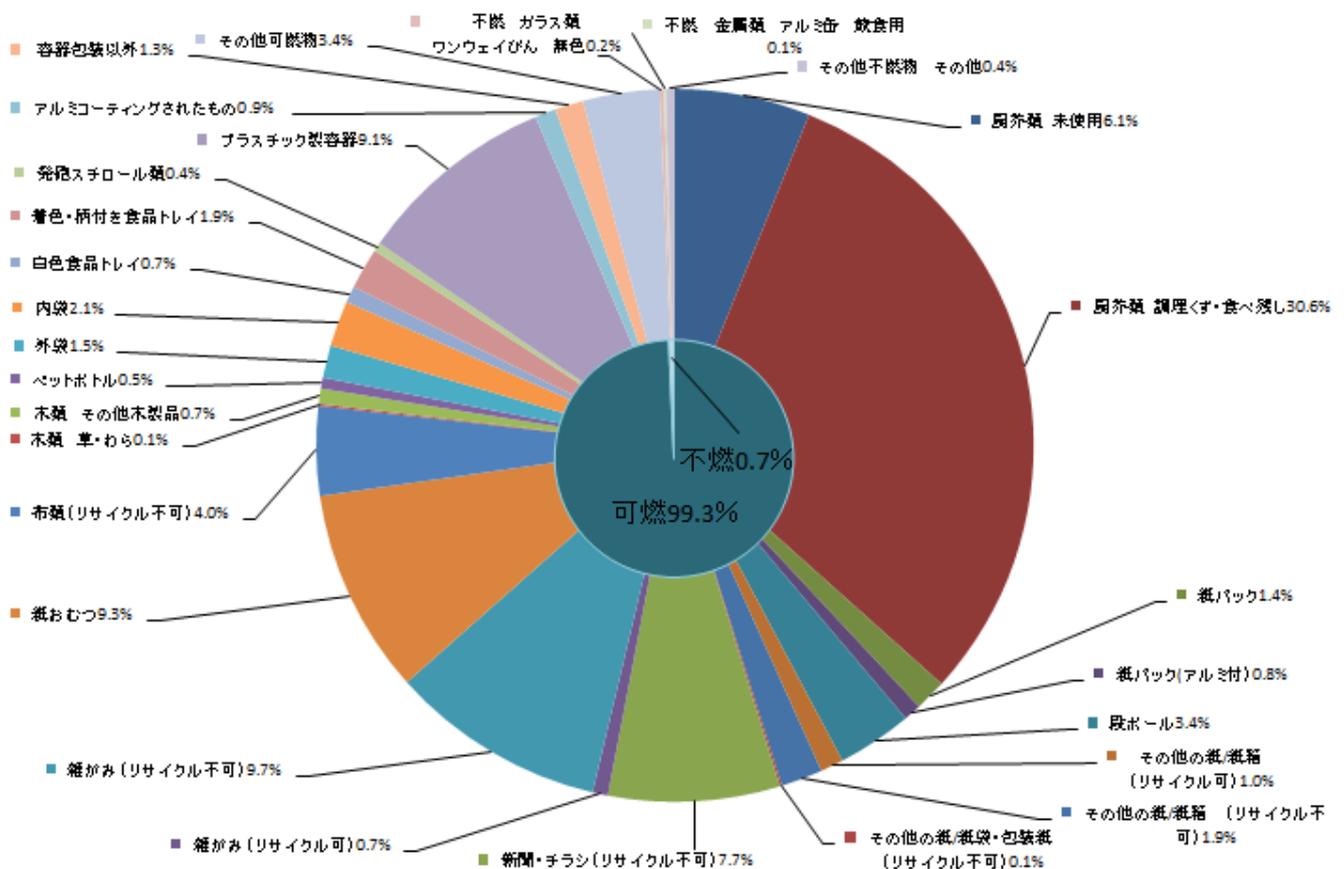
今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「厨芥類」（36.7%）、「紙類」（36.0%）「プラスチック類」（18.4%）の3種であり、全体の約91.1%を占めていた。個別にみると、厨芥類「調理くず・食べ残し」（30.6%）の構成割合が高かった。

その他10%以上の分類はなく、紙類「雑がみ（リサイクル不可）」（9.7%）、紙類「紙おむつ」（9.3%）、プラスチック「プラスチック製容器」（9.1%）の順である。

その他、収集時間については、収納枠検証地域であった11月調査分より大幅に増加（21分増加）した。また、収集箇所については、道路幅が狭いため、積雪期の収集車の通行については特に注意が必要と考えられる。

なお、本市においては、収集当日の午前8時30分までにごみを排出することとしているが、収集車が近づいてきたタイミングでの排出や、段ボールを容器とした排出が散見された。



② 事業系（可燃）ごみ

今回実施した組成分析調査の調査結果を別表に示した。

重量比で10%以上の大分類の組成項目は「紙類」（44.3%）、「プラスチック類」（22.3%）、「厨芥類」（14.8%）の3種であり、全体の約81.4%を占めていた。

個別にみると、紙類では「雑がみ（リサイクル不可）」（17.1%）「段ボール」（9.6%）、プラスチックでは「プラスチック製容器」（10.6%）の構成割合が高かった。

